

進路だより

2021年4月15日 No.3

進路を切りひらく学習法（その2）

4 学校・先生を利用しよう

①授業や家庭学習で分からない点は、質問しよう。

- 1) 休憩時、昼食後、放課後を利用する。
- 2) 質問をすると、印象に残りやすい。
- 3) どの先生に聞いてもよいし、先生でなくてよく分かる友だちに聞いてもよい。

②朝学習の時間の学習をきちんとやろう。

- 1) 入試ではやさしい問題を間違うと命取り。
- 2) 基本問題の復習、自学自習の練習になる。
- 3) 少しずつでも積み重ねると大きな力に。

③自習の時間を大切に。

- 1) 3年生では、やむを得ず先生の出張などが増え、自習時間が増える可能性がある。
有効に使えるように、普段から問題集などを持ってきておくとうい。

5 復習は目、口、耳、手（もちろん頭も）をすべて使う

①その日に習ったことは、その日のうちに自分のものにする。

②「わかる」と「できる」ことは違う。先生の話聞いて「分かった」からといって

安心しない。自分の頭で考えて、数学の問題が解けるのか、英文が日本語に訳せるか、社・理の用語の意味を説明できるか、などを確認する。

③ただ目で読むだけでなく、目で見、声に出して読んで、その声を聞いて、手で書く。こ

れらの作業が、頭を働かせ、集中力を増し、よく身につく。

6 予習をするくせをつけよう

- ①どんなことでもあらかじめ知っているというのは強いし、話を聞いてもわかりやすい。

学習の基本である授業をわかりやすくする「下調べ」をして、授業に臨もう。

- ②明日、授業のある教科をたとえ5～10分でも予習する。

まずはやれる教科からやり始めよう。(1教科でもよい)

教科書を読む、漢字単語を調べるなど。

7 考えながら勉強する

- ①今、何を勉強しているのか、どんな解き方か、特徴は何か、間違えたり混同しやすいものはないか、などを意識しながら勉強する。

- ②何も考えず、ただ手を動かして書くだけでなく、「ポイントは何か」などの視点で考えながら勉強するとよく身につく。

8 学問に王道なし

- ①学習の成果があらわれるのは、早くても3ヶ月後、普通6ヶ月後ぐらい。

1) 「継続は力なり」 小さいことでも積むと大きい。

2) 効果が直ぐ現れなくても、我慢して努力を続けること。直ぐ諦めるな。

- ②「受験勉強」は「マラソン」に似ている。

1) ムラをなくすこと。今日は徹夜でやったが、翌日は何もしなかったとか、1週間は頑張ったが次の1週間はほとんどしないというのでは、効果が上がらない。毎日一定量の学習をしよう。

2) スタートを早く。早くやり始めるほうが有利なのは当たり前。まずやり始めて、それから方法や内容についてはやりながら改良して行けば良い。

- ③形式にこだわらぬこと。

あせらず、自分にぴったりの方法を見つけていこう。(このプリントも参考に)

- ④自信を持とう。

計画を立ててもこの計画でいいのだろうか、こんな勉強法でいいのだろうか、と迷わない。

進路を切りひらく学習法（おまけ）

9 授業態度をチェックしよう（○、×をつけてみよう）

- ①（ ） 予習をやって授業に臨んでいる。
- ②（ ） 教科書、ノート、道具などの忘れ物はほとんどない。
- ③（ ） 先生が来られる前に教科書やノートをそろえて、授業を受ける準備が完了している。
- ④（ ） 予習や授業での疑問点は、積極的に質問して解決し、友だちが質問したときも注意深く聞く。
- ⑤（ ） 先生が黒板に書かれることはきちんと記録し、説明などで重要なところはメモしている。
- ⑥（ ） 授業中、おしゃべりしたり、ぼんやりして、先生に注意されることはない。
- ⑦（ ） 正しい姿勢で授業を受けるよう心がけている。
- ⑧（ ） 授業で質問されたとき、自分があたっていなくてもよく考える。
- ⑨（ ） 実験や実技にも積極的に挑戦している。
- ⑩（ ） 先生の説明などから、重要点やテストのポイントをつかむようにしている。
- ⑪（ ） 授業の後、復習をしている。